

製品名: リラキシン 3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab17003**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:20000-1:40000

分子量

抗原情報

遺伝子名	RLN3
別名	RLN3; INSL7; RXN3; ZINS4; Relaxin-3; Insulin-like peptide INSL7; Insulin-like peptide 7; Prorelaxin H3
遺伝子 ID	117579.0
SwissProt ID	Q8WXF3
免疫原	ヒト リラキシン 3 の内部領域から得られた合成ペプチド。

背景

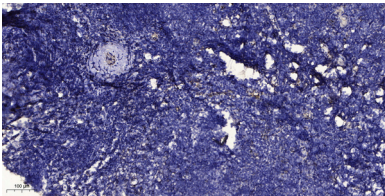
リラキシン 3 (RLN3) ホモサピエンス この遺伝子は、インスリン様ホルモンであるリラキシンファミリーの一員をコードしている

す。このホルモンは主に脳で発現し、ストレス、記憶、食欲調節などの生理学的プロセスにおいて役割を果たしています。コードされているタンパク質は前駆体であり、タンパク質分解によってジスルフィド結合で連結された A 鎖と B 鎖からなるヘテロ二量体の成熟型を生成します。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2015 年 7 月]、機能：神経ペプチドシグナル伝達プロセスにおいて役割を果たす可能性があります。LGR7、リラキシン 3 受容体 1 (GPCR135)、およびリラキシン 3 受容体 2 (GPCR142) のリガンドです。類似性：インスリンファミリーに属します。サブユニット：2つのジスルフィド結合で連結された B 鎖と A 鎖のヘテロ二量体。

研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°C で一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。